

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和7年7月末現在）

今月の重点活動

■水稲 脱プラスチック肥料の現地検討会

水稲栽培には、プラスチックコーティングにより肥効をコントロールする全量基肥肥料がある。この肥料は追肥を省略でき、省力化できることから広く使用されている。しかし、プラスチック被膜が水田に残り、環境汚染の原因となることが課題となっている。

農業普及課では、飛騨市と協力し、プラスチック被膜を使用しない全量基肥肥料の現地試験を行っている。7月3日には、生産者、JA、飛騨市、県関係者等で現地ほ場の巡回をして、生育状況を確認し、意見交換を行った。

農業普及課では、今後も脱プラスチック肥料に向けて、調査を継続していくとともに、収量、品質管理に向けて支援を続けていく。



【ほ場巡回の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■指導農業士 指導農業士会飛騨支部が夏季経営研修会を開催

7月18日、指導農業士会飛騨支部が夏季経営研修会を開催した。

今回は、高山市の指導農業士3名のほ場を視察し、お互いの経営を知ることと新たな経営の視点や手法について学んだ。ほ場視察後には、岐阜県農政部長、JAひだ組合長、高山市、飛騨市を招き、今後の岐阜県農業に関することや飛騨地域の農業振興、指導農業士会飛騨支部と連携した担い手育成について意見交換を行った。

農業普及課では、12月に計画されている新規就農者激励会の開催に向け支援を行うとともに、今後も飛騨地域の担い手育成に取り組んでいく。



【ほ場視察の様子】

■飛騨名農会 夏季セミナーを開催

飛騨の産地形成と発展に貢献してきた農家で構成する飛騨名農会では、会員の研鑽と交流を目的とし、夏季セミナーを7月9日に開催した。

セミナーでは、「地域が元気になる産業の発展方向を考える」をテーマに、会員が取り組む水稲省力化技術の湛水直播実証やスマート農業の取り組みを視察した。この他に飛騨市の若手農業者が取り組むイチゴやトマトの観光農園及び飛騨地域トマト研修所での担い手育成を視察した。

新たな取り組みは、会員に大きな刺激となるとともに、飛騨地域の農業の新たな展開を感じさせるものとなった。

農業普及課では、今後も飛騨名農会の活動を支援し、地域の発展や活性化につながる取り組みを継続していく。



【視察先で説明を聞く会員】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏秋トマト 各地区でトマト出荷基準目揃え会を開催

飛騨蔬菜出荷組合トマト部会は、本格的な出荷前となる6月30日にJAひだ本店で目揃え会を開催した。それを受けて、各地区においても7月上旬に目揃え会が開催され、出荷規格や着色基準を確認した。

今年の作柄は、梅雨明けが非常に早く、果実の着色が早まっている。令和6年度から出荷規格が変更され、大きな問題もなく、選果効率の向上につながったことから、本年度も同様の規格で出荷することが周知された。また、本年度から拡大される熟期促進剤散布試

験についても説明がなされ、10月の出荷量の平準化・計画的な収穫完了、秋季の品質向上が期待される。

農業普及課からは、灌水・追肥等の基本栽培管理や県内で被害が確認されたトマトキバガの対策を説明した。今後も現地巡回などの活動によりトマトの安定生産支援を継続していく。



【選別されるトマト】

■宿讎かぼちゃ ほ場審査会を開催（飛騨全域）

第12回宿讎かぼちゃ研究会ほ場審査会が7月23日に開催された。

宿讎かぼちゃは、ヘチマのような独特の形状と灰緑色で縦縞のある表皮が特徴で、ホクホクとした口当たりと上品な甘みが魅力の特産品目である。

一方、表皮が薄いため病害虫に弱く、高度な栽培技術が求められる。研究会では栽培技術の向上と生産者同士の切磋琢磨のため、栽培管理の優れた生産者を表彰するほ場審査を毎年実施している。

当日、農業普及課は審査員として、ほ場の管理、着果状況、病害虫対策の実施といった観点から審査を行った。

本年は、梅雨の影響による病害虫被害も少なく、良質なかぼちゃの出荷が期待される。農業普及課では、今後もかぼちゃの栽培管理や防除指導を行っていく。



【圃場管理の状況进行评估】

■モモ 統一目揃え会を開催

JAひだ果実出荷組合協議会は、飛騨桃の本格的な出荷を間近に控えた7月22日に、飛騨桃統一目揃え会を開催した。

今年の飛騨桃は、カメムシ類の被害が一部みられた地域もあったが、生育は良好に進み、昨年と同時期の7月下旬から本格的な出荷を迎えた。

目揃え会では、果実を手に取りながら熟度や着色について目揃えを行い、出荷基準や出荷要領の確認を行った。また、JA全農岐阜及び市場3社の担当者より、他産地の出荷状況・販売方針等の情勢報告や、市場への積極的な出荷について要望が出された。

農業普及課からは、今年の気象推移やモモの生育状況について情報提供を行うとともに、害虫の発生状況や今後の発生予測の説明を行った。今後も関係機関と連携しながら、栽培技術や病害虫発生状況の情報提供、病害虫防除暦の作成等を実施し、果樹の安定生産に向けて支援していく。



【目揃え会の様子】